

批判大会全国労働

「労資協調・企業防衛」路線へ純化した動労大会

第40回動労全国大会は、七月十七日から二〇日まで秋田市で開催され、当局の尖兵として一層純化した動労「本部」革マルの反労働者的方針が「確認」されました。
動労「本部」革マルは、この第40回大会の裏切り方針をもつて「再建フォーラム」という名のボス交をテコに、国鉄労働者への敵対をより一層強めてくることは必至です。
われわれは、この動労「本部」革マルの裏切りと敵対を許さず、「三本柱」過員」「分割」「民営化」等々の攻撃をはね返す闘いに決起していかねばなりません。

三本の修正動議が出される

この全国大会においては、全国の戦闘的組合員を代表する代議員から三本の修正動議が出されました。

「経過（総括）」の部分で、「内達」攻撃に対する動労「本部」革マルの裏切りを糾弾する組合員の気持を代弁した動議（左側参照）は、汚らしいヤジの中で「少数否決」されました。
提案された修正動議は次のとおりです。

さらに「方針」に対する二本の修正動議も、ウヤマのうちに「取り下げ」となりました。

裏切り方針に追隨するのか

動労第40回全国大会の経過の中で鮮明になったことは、

第一に、「職場と仕事と生活を守る」と称して「59・2」「内達」動乗勤」を裏切り、三万人に及ぶ「過員」を発生させる尖兵として生きてきた動労「本部」革マルが、より一層反動的に純化したこと。

修正動議

しかし、この「内達」問題に関しては、動労が責任組合であることはまぎれもない事実であり、この「内達交渉」が、動労主導で行われたのは当然であります。それは動労主導で集約したという厳正な事実のうえにたつて、「内達」動乗勤車乗務員勤務、労働条件など全般にわたって発生するすべての問題の責任も同時に動労が担わなければならないというものです。

今回、われわれが集約した内容は国鉄当局が提案した「内達改正案」にたいし、前述したとおり、動労主張を反映させましたが、しかし現行「内達」に比して、大幅な労働条件の改善であり、労働強化であることも紛れもない事実です。そして、「六〇・三ダイヤ改正」以降、全国の動力車乗務員がこの「改訂内達」による労働条件のなかで働くことになりました。われわれは「六〇・三ダイヤ改正」以降の動力車乗務員の勤務及び労働条件について、動労主導で集約した責任において真正面からうけとめていかねばなりません。

現情勢下において、政府・国鉄当局は「六〇・三ダイヤ改正」において「改訂内達」の導入だけで八〇〇〇名をこえる要員合理化を公言しており、われわれが「内達改正」にあたり、国鉄当局に認めさせ集約した内容にまで土足で踏みこんでくる可能性が大きいことを直視しておかなくてはなりません。
したがって「内達改正」のたまたかについての真の総括は「六〇・三ダイヤ改正」のたまたか如何にかかっているといえます。

「六〇・三ダイヤ改正」における取り組みを強化しなければ、動力車乗務員の「職場と仕事と生活を守る」ことは不可能であります。
われわれは全組織をあげて、動労主導で集約した責任を「六〇・三ダイヤ改正」において誠実に果たしていかなければなりません。

↑ 3 地本と3分科にわたる戦闘的・良心的代議員から提出された「総括」の修正動議（全文）